

せいわのわ

14号

2026年1月15日発行



午

代表取締役社長

ふくしままさのり
福島 正義



あけましておめでとうございます。OB の皆様をはじめ地域の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃より弊社に多大なご厚情を賜り、誠にありがとうございます。

2026 年の年頭にあたり、昨年の振り返りと本年の展望をお話しいたします。

未踏の地への挑戦を経て

2025 年は、私たちにとって「挑戦」の 1 年だったと思います。特に京都・桂エリアへの初出店は、長年親しんだ滋賀を飛び出し、未踏の地へ進出するという大きな決断でした。また、新たな住宅フランチャイズへの加盟や新店舗オープンなど、未来への種まきも着実に行ってまいりました。これらはまだ芽吹いたばかりです。軌道に乗せるまでには時間を要しますが、前進している確かな手応えを感じており、これから大きく育てていきたいと考えています。

未来への足場を固める年に

迎えた 2026 年、本年のテーマは「足場固め」です。2027 年の出店計画を見据え、今年は各店舗が自立し、組織の基礎体力を高める時期だと捉えています。

お客様満足の鍵は、社員一人ひとりの「知識と技術」にあります。知識を深め技術を高める一環として、動画を活用したノウハウ共有を進めているところです。昨年 11 月に動画編集スタッフを迎え、技術を可視化することで効率的な人材育成を図っています。また、リフォーム部門への DX

ツール導入により、業務の属人化を解消し、チーム全体でお客様をサポートできる環境を整えました。すべては、より質の高いサービスをお届けするための準備です。

変化の時代こそ、心に寄り添う提案を

昨今のインフレ基調の中、住まい計画に慎重な方も多いでしょう。私たちはプロとして、無理なご提案は決していません。しかし同時に、理念にある「暮らしのやすらぎと喜び」を感じられる、ワクワクするご提案も大切にしたいと考えています。現実的な解決策と、夢のある提案。このバランスを保ち、最良の選択肢をご提示いたします。

また、DX 活用により、お住まいのメンテナンス履歴を会社全体で守り、「ライフタイムバリュー（生涯にわたる価値）」を支え続けていく所存です。「今が買い時なのか」といったご不安にも誠実にお答えしますので、どうぞご安心ください。

「滋賀を元氣にする」新たな可能性

さらに本年は、「滋賀を元氣にする」というキーワードを掲げます。私たち自身も年齢を重ね、生活者として「もっとこうだったら」と感じる場面が増えました。そうした視点から、既存の枠を超えた新規事業の準備も進めています。

まだ詳細はお伝えできませんが、暮らしがより豊かになるよう、新たな価値をお届けできればと考えております。本年も地域の皆様に寄り添い、サービスの向上に尽力してまいります。引き続きよろしくお願ひいたします。

新年のご挨拶

2025年も多大なるご愛顧をいただき、厚く御礼申し上げます。

人生に深く寄り添うパートナーとして、

私たちは2026年も皆様とかけがえのない時間を重ねていく所存です。



常務
みや じま ひで し
宮嶋 秀司



取締役専務
なか むら ご へい
中村 伍平

世代を超える信頼は、 誠実な対話から

2025年最も嬉しかったことは、かつて当社で家を建ててくださったお客様より、「子どもが家を建てる」とご紹介いただく機会が増えたことです。親子2代、ときには3代にわたって当社を選んでいただけることは、私たちにとって何よりの喜びです。私が最も大切にしているのは、「良いことも悪いことも正直にお伝えする誠実さ」です。たとえお耳に痛いことでも包み隠さずお話しし、真摯に向き合う姿勢こそが信頼関係の礎になると信じております。このような誠実な対話の積み重ねが、世代を超えた長いお付き合いにつながっていると実感しております。

2025年、かけがえのないご縁が 私たちの原動力に

「人生で一番高い買物を何故、弊社でご契約していただいたのでしょうか？」

このご質問をご契約時に私自身がしています。その中に特に心に残っているのは、「物件を決める前から、この担当者から買おうと、家族で決めていました」というお言葉を数多くいただいたことです。これは手前味噌で恐縮ですが、社員がお客様と深い信頼関係を築き、プロとして「個人のブランド」を確立できている証ではないのかを感じています。皆様に選んでいただいたことを誇りに思うとともに、深く感謝申し上げます。

2026年、私の約束

「住まい」の生涯パートナーとして

西和不動産がこの地域にとって、「なくてはならない存在」でありたいと願っております。物価高騰などが続く昨今、イニシャルコストだけでなく、ランニングコストも抑えた住まいづくりをご提案することが、私たちの使命だと考えております。その取り組みとして、新築への20年保証に加え、最長60年まで延長可能な保証システムを導入しました。「家を売って終わりではなく、メンテナンスを含めお客様の暮らしを末永くサポートする体制を整備。ライフスタイルの変化に合わせ、頼れる「生涯のパートナー」として貢献してまいります。

2026年、私の約束

理念を胸に一丸となり、 地域の明日を切り拓く

2026年、西和不動産はこの地域にとって、「より信頼できる存在」であり続けることをお約束します。そのため、本年は改めて会社の指針（パーソン・ミッション・ビジョン・バリュー）を見つめ、組織の結束力を高めてまいります。目指しているのは、社員全員が同じ方向を向き、高い志を持つ「強い組織」です。それがお客様へのサービス品質の向上、そしてより確かな「安心・安全」の提供に直結すると確信しています。また、空き家のリユース事業を通じて、地域の課題解決にも注力。良質な住宅の再生は団地のゴーストタウン化を防ぎ、街全体を持続可能な存在にするための重要な地域貢献です。現状に留まることなく果敢に挑戦し、住まいを通じて豊かな地域社会の実現に尽力してまいります。



リフォームせいわ
統括マネージャー
おお かわ たか ひろ
大川 貴大

2025年、信頼とつながりを実感

実質的に営業職を離れて活動していた2025年、特に印象に残っているのは、秋の周年祭での出来事です。かつて担当させていただいたお客様がたくさん足を運んでくださり、「またいつでも来てね」と温かい言葉をかけてくださったり、ご友人を紹介くださったりしたのです。これまでの対応が信頼につながったのだと改めて実感し、大変嬉しく思いました。会場でいただいた新たなご相談は、その場で部下へと引き継ぎ、ご縁の広がりを感じることができました。

2026年、私の約束

地域に必要とされる店舗へ

2026年は、この地域の方々から信頼され、必要とされる店舗でありたいと考えています。お住まいのことで何かあった際、「すぐに相談ができる」「気軽に相談ができる」と思っていただけるよう努めてまいります。そのため、2026年は特にアフターフォローへ力を入れる所存です。工事が終ったあとも、お客様と継続的なかかわりを持ちたいと考えています。



イマジンホーム
部長
しば た りょう すけ
柴田 亮介

2025年は暮らしを深める提案を意識した年に

ある30代後半のご家族とのエピソードです。新生活に向けて家具や家電の配置のご相談をお受けする中で、ロボット掃除機の収納場所についてご提案しました。単に機器を置くのではなく、リビングから見えないよう位置を工夫し、機能的に使える専用スペースを設けるというアイデアです。「そんな発想はなかった」と大変喜んでいただけました。この提案は、お客様の生活スタイルや趣味、休日の過ごし方などをじっくり伺つたからこそ可能だったと感じています。住み始めてからの後悔を少しでも減らし、豊かに暮らしていただきたい。その一心で、プロとしての経験と最新のトレンドを組み合わせたご提案を心がけています。



経営企画室
室長
ふじ わら たか し
藤原 貴之

広告から生れたお客様との接点

普段はお客様と接する機会の少ない部署にありますが、昨年は広告制作を通じ、お客様とのつながりを実感した1年でした。特に印象深かったのは、イオンモール草津に掲示した「間違い探し」の広告です。お買い物の合間に親子で楽しんでいただけるよう工夫を凝らしたところ、多くの方にWebの正解ページへアクセスしていただきました。現地で楽しんでくださっている様子や、数字として表れる反応。このような反響を通じ、私たちの発信が皆様の笑顔につながっていると実感できたことが喜びでした。

2026年、私の約束

地域の発展に貢献する住まい提供

滋賀に根ざした企業として、2026年は「地域の活性化」により一層貢献してまいります。私たちが魅力的な分譲地やこだわりの住まいを提供し、新しいご家族をお迎えすること。それは街全体の活気や公共施設の充実、ひいては地域の安心・安全にもつながると考えています。単に家を建てるだけでなく、そこに住まうことで日々の暮らしが豊かになり、地域全体がより良くなる。そのような未来を描きながら、皆様に選ばれ続ける企業であるよう誠心誠意取り組んでまいります。

2026年、私の約束

想像を超える感動を

地域のお客様にとって、単に「良い家(モノ)」を提供するだけでなく、そこで營まれる「より良い暮らし(コト)」を創造する存在でありたいと考えています。

設備が良いのは当然のことですが、目指すのはその先にある、お客様の想像の1つ上を行くご提案です。そのためにも、モデルハウスでの宿泊体験などを通じて、暮らしを体感していただける機会を創出できたらと考えております。私たちの強みは、お客様を思う「人」の力です。チーム一丸となり、お客様一人ひとりに寄り添い、選んでいただける企業であり続けられるよう精進してまいります。

2025年度 グッドデザイン賞受賞!

このたび、当グループ企業の「ALTS DESIGN OFFICE」は2025年度グッドデザイン賞を受賞いたしました。

滋賀県甲賀市土山にて、空き家問題を抱える古民家を宿泊施設として再生させたプロジェクトと、古民家再生への想いをご紹介します。



ALTS DESIGN OFFICE 代表

みずもと すみお
水本 純央

プロジェクトについて

地域との対話から生まれた空間

私の出身地である滋賀県甲賀市土山町は、緑豊かな土地ですが、空き家問題や若者の流出という課題も抱えています。本プロジェクトは、単なる建物の改装に留まらず、デザインを通じて地域活性化の一助となることを目指しました。地域の方々には、当初、外部からの参入に対し、少なからずご不安を感じる方も。しかし、集会やお茶摘み体験などの交流を通して、少しずつ理解をいただくことができました。構想から完成まで約3年を要しましたが、地域の方々に受け入れていただくまでのこの一連のストーリーこそが、何よりの成果だと感じています。この受賞を通じて、一見課題が多いと思われるがちな地域であっても、デザインの力で希望を生み出せるという可能性をお示しできればと考えております。



デザイン面で工夫したところ

「既存の良さ」と「交流」をデザインする工夫

限られた予算の中で、私たちは古民家本来の良さを最大限に活かすことに注力しました。デザイン面で特にこだわったのは、コスト抑制と地域参加の両立です。壁の塗装などは施主様や地域の方々とのワークショップ形式を取り入れ、予算を抑えつつ、関わる全ての人々が建物への愛着を持てるよう工夫しました。また、内装は宿泊客と地域住民が自然に交流できるよう、キッチンを囲むオープンな配置とし、広々とした畳やフローリングのスペースを設けました。既存の建具も調整しながら再利用し、新旧が調和する空間を目指しています。進行中には、シロアリの被害や雨漏りなど古民家特有の問題も発覚しましたが、予算配分の優先順位を的確に見極ることで対応いたしました。

お客様へ向けて

私たちがご提供できるのは、建物やデザインという「器」の部分までです。しかし、この空間が地域の方々の交流の場となり、イベントが生まれていくことでしょう。「グッドデザイン賞を受賞した建物」という評価が、使われる方や住民の方々の意識を高めるきっかけになれば大変光栄です。デザインの際に私が大切にしているのは、建築家として作品を押し付けるのではなく、暮らしに寄り添う提案すること。これからも住む人が自由に空間を彩れるよう、関わりながらその地域、その生活の良さを残すことを意識してまいります。

現場の安全が「住まいの品質」を支える。

協力業者様150名と共に 安全大会を開催

お客様に安心して暮らせる住まいをお届けするため、当社では現場の安全管理を最優先事項としています。2025年11月に開催された「安全大会」の様子と、健全な作業環境がどのように確かな品質へつながるのか。宮嶋常務の想いをお伝えします。

安全大会について

協力業者様と共に、安全意識を再確認

心から安心して暮らせる住まいをお客様にお届けするためには、まず現場の安全管理が不可欠です。2025年11月28日、日頃から工事に携わっている協力業者様など約150名にお集まりいただき、「安全大会」を開催いたしました。

当日は、労働基準監督署の方による講話や安全スローガンの唱和があり、講話や唱和を通じて労働災害の防止と安全意識の向上を図りました。単に事故をなくすだけでなく、現場で働く一人ひとりがプロフェッショナルとしての意識を再確認する場となりました。



常務
みやじま ひでし
宮嶋 秀司

お客様に向けて

健全な作業環境が「確かな品質」を生む

私たちは、無理な工期短縮や長時間労働を排除し、職人の方々が万全の状態で作業できる環境づくりを徹底しております。会社が率先して作業環境を整えることが、施工ミスの防止や精度の向上、ひいてはお客様へ提供する「住まいの品質」に直結すると確信しているためです。

現場の安全は、お客様への誠実さの証です。2026年も、安全管理と品質向上を両輪とし、皆様から信頼していただける家づくりに邁進してまいります。